

第1章 吹田らしい景観の特性

- 1 吹田らしさをあらわす景観の特性
- 2 景域

1 吹田らしさをあらわす景観の特性

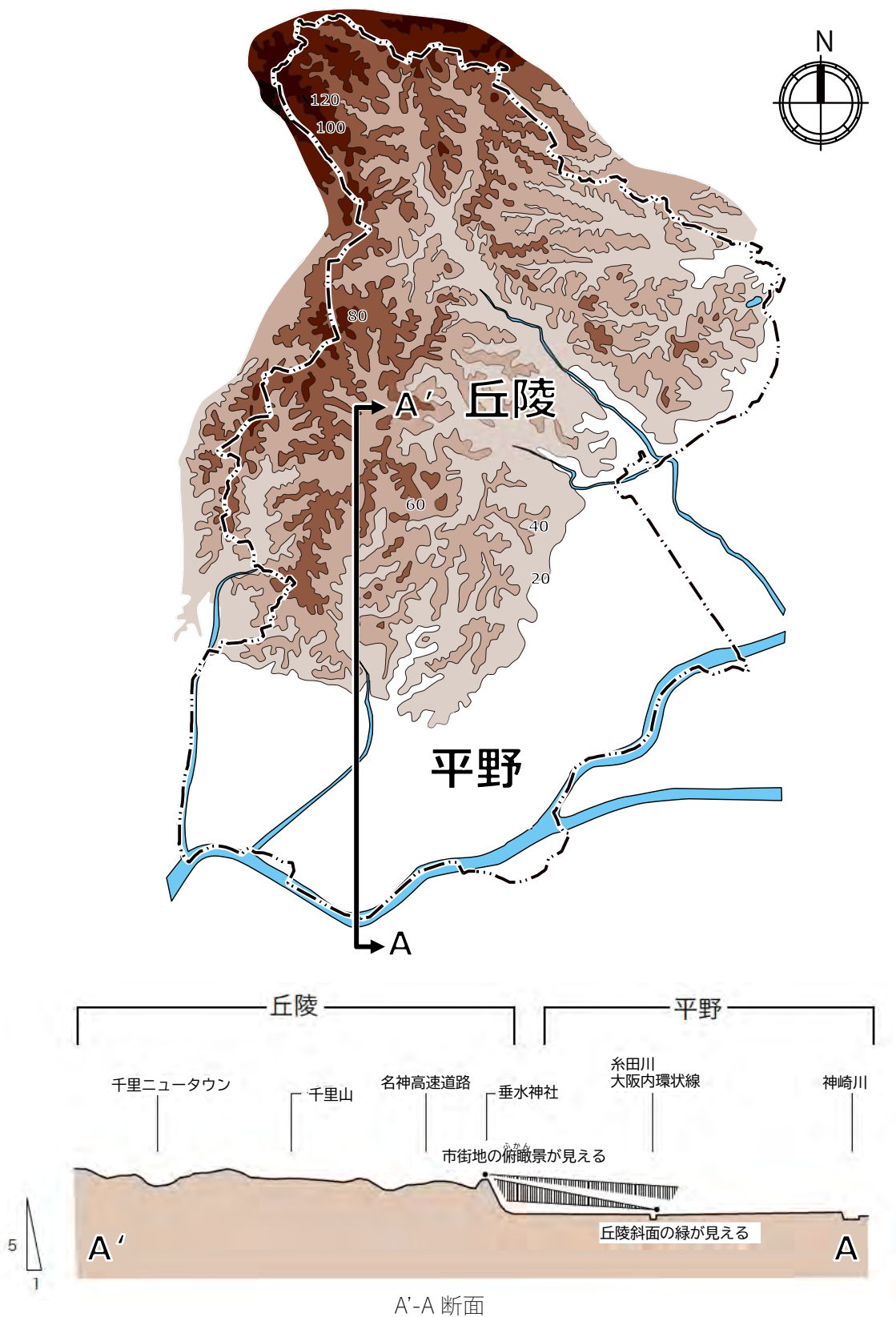
本市は北部の千里丘陵から南部の河川にいたる地形に変化のあるまちとなっており、これら地形の起伏や河川の流れが景観の基盤を形成しています。また、時代の流れとともに市街地が形成され、住宅地や商業地などの土地利用が図られてきました。都市の中では人々の様々な活動や暮らしの営みがみられ、これらが相まって吹田の景観特性をつくっています。

景観特性を捉える要素



(1)地形

吹田市の景観の基盤となる地形



■平野と丘陵からなる景観

本市の地形は、南部の標高 10m程度の低地部に流れる神崎川・安威川沿いの平野と、中央部から北部にかけて、かつて竹林や斜面の緑が豊かに広がっていた標高 20m～100m にわたる千里丘陵によって構成されています。

これら骨格的な地形により、「平野の景観」と「丘陵の景観」が形づくられており、平野の景観は、古くからまちなみが形成されてきた旧市街地で緑やオープンスペースの少ない傾向がみられ、耕地整理や土地区画整理事業によって都市基盤が整備された地域では、通りの先まで見通すことができる整然とした景観になっています。また、丘陵の景観は、千里ニュータウン地域が大半を占め、計画的に市街化されたところが多く、起伏に富み高台からの緑豊かな見晴らしに優れ、地形を活かしてつくられた勾配のある道路が変化のある景観をつくり出しています。千里丘地域では、眼下に平野のまちなみが広がり、建物の屋根越しに市街地や集落を見渡すことができ、吹田らしい景観を楽しむことができます。



千里丘



南金田

■おだやかな河川の流れが織りなす潤いのある空間

本市の南端部を東から南西、大阪湾へと流れる神崎川や安威川沿いには、起伏の緩やかな平坦地が広がり、また、丘陵からは高川や糸田川、山田川などの中小河川が流れています。

橋の上からの眺めは、見通しが良く、特に高浜橋は、神崎川と安威川の合流の様子や美しい夕日が眺められ印象的です。また、その橋も、欄干や欄柱、照明灯などのデザインを楽しむことができ、夜にはライトアップされ、橋そのものの眺めも景観の一つの構成要素となっています。水辺の景観は、水の音や水面のきらめきなどから涼しさや心地よさが感じられ、市内に多くの河川が流れている吹田らしい景観の特徴といえます。



神崎川・安威川

第1章 吹田らしい景観の特性

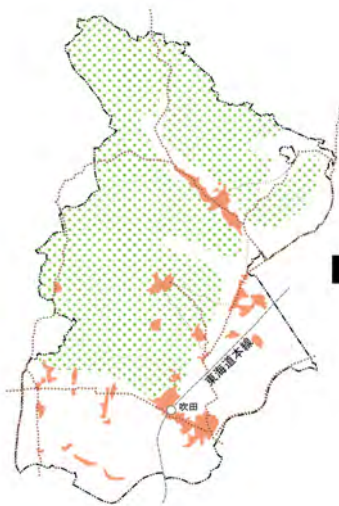
1 吹田らしさをあらわす景観の特性

(2)歴史

本市の市街化は、神崎川・安威川沿いに水陸運の中継点として形成された高浜町・南高浜町周辺、旧街道や河川沿いなどに発展した山田・佐井寺・榎坂・岸部などの旧集落を母体としながら、明治期に内陸型工場の立地が進み、大正期には国鉄（現ＪＲ）の吹田操車場や千里山における郊外型住宅地の開発などにより南部から中部にかけて進みました。

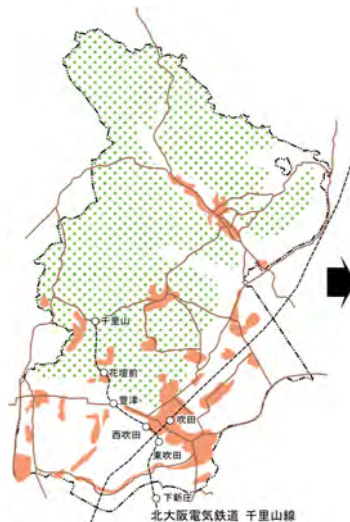
- 平野部の道沿いや山田川沿いなどを中心に集落があり、現在も歴史的なまちなみが残されています。これら集落以外には、農地や林地などが広がっていました。
- 明治9年（1876年）の大阪～京都間の鉄道開通により、国鉄吹田駅が開業しました。当時の駅舎は、アサヒビール吹田工場正門前あたりにありました。

明治時代

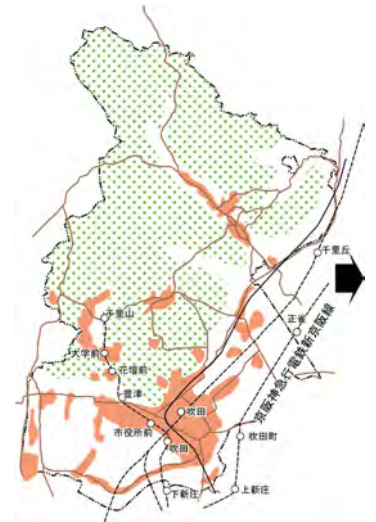


- 昭和15年（1940年）に当時の吹田町と岸部村、千里村（ちさとむら）、豊津村が合併し吹田市が誕生しました。
- この頃に国鉄吹田駅を中心とする市街地が拡大し、また大正時代に大阪市から移転してきた関西大学周辺でも新たな市街地が広がり、人口も大きく増加しました。

大正時代



昭和時代・初期



※緑地の分布状況は、1/50,000 地形図(国土地理院発行)をもとに概ねの位置を図示している。

- 大正13年（1924年）に国鉄吹田駅は現在の位置に移転し、駅前に形成された商店街は北摂随一の商店街と言われ、遠方からの買い物客でにぎわいました。
- 国鉄吹田操車場や千里山の郊外型住宅地開発等により、市南部から中部の市街化が進みました。
- 千里山では、田園住宅都市開発という目標のもと、西洋式のまちづくりが行われました。

第1章 吹田らしい景観の特性

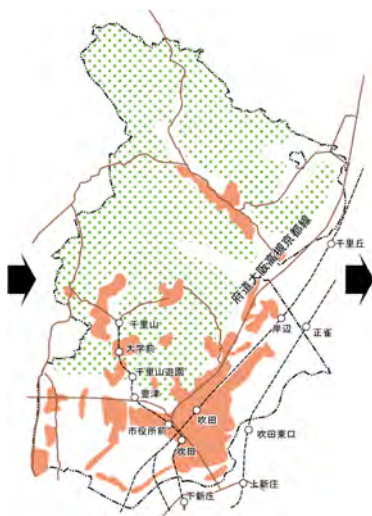
1 吹田らしさをあらわす景観の特性

昭和30年代からは、北部では千里ニュータウンの開発を始めとする市街化や、南西部では南吹田地域の土地区画整理事業などにより、全市域にわたって急速に市街化が進みました。昭和50年代からは、国鉄吹田駅前第一種市街地再開発事業が行われ、平成にかけては佐井寺東、南、北の各地区の土地区画整理事業の実施により、現在では全域が市街地となっています。

- 昭和30年頃まで市街地は現在のJR吹田駅と阪急電鉄千里線沿線が中心となっていました。以降、各地で宅地開発が進められ、下新田村および山田村との合併もあり、人口は8万人を超えるようになりました。
- これら広がった市域が、千里ニュータウンや日本万国博覧会（大阪万博）、大学などの用地として活用され、新しい時代の基礎となりました。

- 佐井寺北地区や高塚緑住地区等の土地区画整理事業をはじめとしたまちづくりが進み、市域全体に市街地が広がりました。
- 吹田操車場跡地は市街地の整備を進め、平成27年（2015年）に北大阪健康医療都市（健都）と名付けられました。平成30年（2018年）に市立吹田市民病院、令和元年（2019年）に国立循環器病研究センターが移転開業しました。
- 平成31年（2019年）には南吹田駅が開業しました。
- 大規模な開発行為などへの景観形成地区の指定を行い、31地区（令和3年（2021年）11月末時点）を指定しています。

昭和時代・戦後



昭和時代・高度経済成長期



平成時代～現在



- 昭和36年（1961年）に開発が始まった千里ニュータウンでは、中高層住宅地や戸建住宅地が計画的に配置されました。
- 市南西部などにおいて土地区画整理事業の実施により、道路や公園が整備されました。
- 昭和45年（1970年）の日本万国博覧会（大阪万博）を契機としてまちづくりの機運はさらに高まりました。国鉄吹田駅前第一種市街地再開発事業もこの時期に実施しています。

歴史を伝える景観

●人々の営みの中で作られてきた都市の景観

景観は「目で見える環境」と言われます。私たちのまわりを取り巻くもの全てが環境ですが、そのうち目に見えるものが景観です。都市の環境は、目に見えるものだけでも地形の高低差や河川、樹林などの自然の環境、道路や公園、建物などの構造物をはじめ様々な要素で構成されています。自然の環境であっても人の手が加わっている場合がほとんどでしょう。人を取り巻く環境は人がつくってきたともいえます。

都市には歴史があります。歴史とは人々の営みの経過のことです。人々の営みの中で環境がつくられ、景観が作られてきました。景観の背景には歴史があって、景観から歴史を読み解くこともできるのです。

●吹田の歴史を振り返れば

古代の大規模な瓦窯があって…、中世には吹田城が築城され…、近世には水運や街道など交通の要衝で…、近代にはビールと鉄道のまちと呼ばれ…、高度経済成長期には千里ニュータウンが建設、日本万博博覧会も開催され…。こうした吹田の歴史はみなさんもよくご存知のことでしょう。各時代の痕跡は現在の景観に表れています。

●身近なところにある歴史と景観

市史に掲載されるような吹田市全体にとって重要な歴史でなくても、個人の思い出と結びついているような身近な歴史もあります。卒業式の日記念写真を撮った小学校の校門は今も変わらずにあるとか、少し前まで農地が残っていたところにいつのまにかマンションが建っている…などなど。身近なところにも歴史があって、それを伝える景観が見つかります。



現在の景観には各時代の歴史が積み重なっている（佐井寺）



地域の人々の暮らしを見守ってきた噴水（千里山）



マンションの擁壁に刻まれた上の川旧水路をモチーフとしたデザイン（垂水町）



泉殿宮の参道口の鳥居の跡（西の庄町）

(3)土地利用

本市は、旧集落や丘陵地の住宅、工業のまちから発展し、現在では商業施設や業務施設、大学なども多数立地した学術文化のまちとしての性格も備わっています。

全体的には、生活を中心とした便利で住みやすい複合型都市であり、住宅地を中心に、駅前などにある商業・業務地、河川沿いなどの工業地、複数の鉄道路線や幹線道路が市内を通り、市民の憩いの場として親しまれる公園や緑地など、景観においても複合型の都市が形成されています。



北千里駅周辺



江坂駅周辺

■住宅地

市全域にわたって住宅地が広がっており、計画的に開発された千里ニュータウンをはじめ、駅前再開発や土地区画整理事業による市街地の形成が図られ、整備された区域は市域の約三分の一を占めているほか、古くからのまちなみが形成されてきた旧市街地など、多様なまちなみがみられます。千里ニュータウンでは、整備後50年余りが経過する中で、再生の取組が進められ、ニュータウンらしい開放感を活かした団地の建替えや民間マンションの建設が行われています。

また、令和12年度（2030年度）の完成を目標として、佐井寺西土地区画整理事業が施行されるなど、新たなまちづくりの動きも続いています。



竹見台

第1章 吹田らしい景観の特性

1 吹田らしさをあらわす景観の特性

■商業・業務地

J R吹田駅周辺においては地域に根付いた商店街、万博記念公園や岸辺駅周辺などにおいては大型の商業施設などが立地し、広告物や照明などによって日常的なにぎわいのある景観を形成しています。

江坂駅周辺は、交通利便性の高さから、様々な業務施設が集積したオフィス街として多くの人が集まり働く場となっています。飲食店を含む店舗ビルも多く立地し、個性的な建物や屋外広告物のデザインを楽しむこともできます。

岸辺駅北側の吹田操車場跡地において、北大阪健康医療都市（健都）の開発が行われ、平成30年（2018年）より各種施設が開業しています。



J R吹田駅南口

■工業地

市内の生産施設は、主にJ R東海道本線や神崎川沿いに多く立地しており、規模の大きな生産工場や全国トップシェア企業が集積しています。これらの企業では、壁面の広告物の工夫により、さりげなく事業のPRを行うなど、景観への配慮がみられます。また、道路や鉄道といった交通基盤が充実している強みを活かした物流拠点も形成されています。



アサヒビール吹田工場

■鉄道網や幹線道路

本市は、JR東海道本線・おおさか東線、大阪メトロ御堂筋線、北大阪急行電鉄、阪急千里線・京都線、大阪モノレール本線、大阪モノレール彩都線といった複数の鉄道路線が市内を通り、15の旅客駅と1つの貨物ターミナル駅が設置されています。また、名神高速道路、中国自動車道、近畿自動車道といった高速道路のほか、大阪高槻京都線や新御堂筋（国道423号）、大阪中央環状線、大阪内環状線（国道479号）等の広域幹線道路が縦横に整備され、交通の要衝となっています。これら道路や鉄道などによる交通の軸は本市の景観の骨格となり、丘陵や河川などによる自然景観に変化を与えるとともに、本市の景観に活気やにぎわいなどをもたらしています。また、市内には街路樹等により特徴的な景観をもち、道路愛称のある道路が24路線あり、市内各所で通りの景観を演出しています。



新御堂筋

■公園・緑地

丘陵には、万博記念公園をはじめ千里緑地や大阪大学などのまとまった緑が分布しており、平野と丘陵の境となる千里丘陵のふもとには、紫金山公園や垂水神社などがあります。また、平野には江坂公園や味舌水路など多くの公園や緑地が整備され、神崎川や安威川も貴重なまとまった緑空間を形成しています。民間企業などにおいても緑空間やオープンスペースなどを確保し、地域に潤いを与えています。



紫金山公園



アメニティ江坂

第1章 吹田らしい景観の特性
1 吹田らしさをあらわす景観の特性

吹田市の土地利用区分



(4)都市活動・暮らし

本市は全域が市街化されており、市内の至るところで市民だけでなく市外から通勤、通学、買い物などに訪れる人々による様々な活動や営みが日々展開され、それらが景観を構成する要素になっています。「暮らす」、「働く」、「学ぶ」、「楽しむ」、「自然と眺望を味わう」に分けて、都市活動や暮らしをみていきます。

■暮らす

市内には、千里ニュータウンなどの計画的に整備された住宅地や、古くからまちなみが形成されてきた旧市街地などがあり、それぞれの住宅地において近所を散歩する人や、公園で遊ぶ人、スポーツする人、買い物をする人など、多様な暮らしが営まれています。

日常的な利便性の高さなどを活かした暮らしや、近年では「スマートシティ」といった、再生可能エネルギーの有効活用などに力を入れたスマートな暮らしをめざす動きがあります。



江坂公園

第1章 吹田らしい景観の特性
1 吹田らしさをあらわす景観の特性

■働く

江坂駅周辺をはじめ、オフィスビルが建ち並ぶ駅前等では、通勤や休憩時間帯などオフィス街ならではの景観がみられます。

商店街などに立地する路面店舗や開放感のある業務施設などにおいては、人々の働く姿や行き交う様子をみることができ、まちの活気やにぎわいがあります。



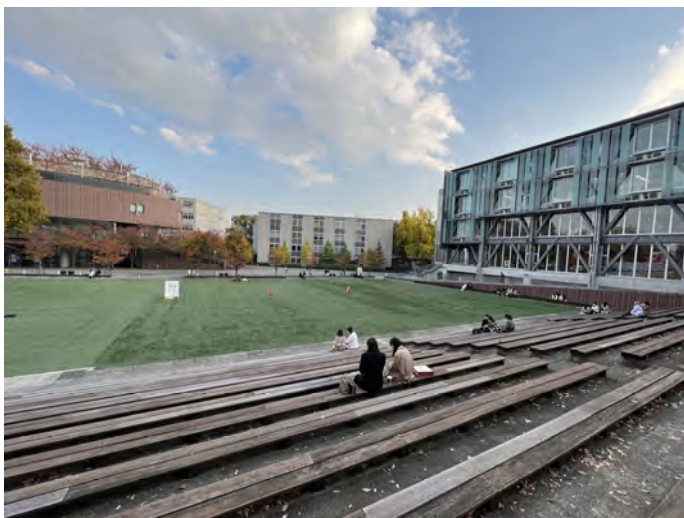
江坂

■学ぶ

市内には5大学（大阪大学、関西大学、大阪学院大学、千里金蘭大学、大和大学）、1研究機関（国立民族学博物館）が立地しており、それらの敷地を合わせるとその規模は約120haと、市域の約3%に相当する面積となります。

市内の大学生数は大阪府で最も多く、それぞれのキャンパスでは学生が勉学やスポーツに励む姿がみられるとともに、学生が地域のまちづくり活動に参加したり、公開講座などにより市民が各大学を訪れたりする姿も多くみられ、大学の周辺には学生向けの店が連なるエリアもあり、若者ならではのまちのにぎわいがあります。

また、市内には図書館やスポーツ施設、文化施設など気軽に利用できる生涯学習施設があり、多くの人々が日常的に利用しています。



関西大学

■楽しむ

万博記念公園周辺には、商業施設や大規模なスタジアムが立地し、週末などには広域から多くの人々が訪れ、にぎわいを形成しています。また、ＪＲ吹田駅周辺の地域など、古くから店舗が集積する地域においても、地元住民によるイベントが行われるなど、市内外から多くの人を呼び込む魅力的なまちが形成されています。

山田伊射奈岐神社の太鼓神輿、吉志部神社の例大祭（秋祭り）など古くからある社寺では年間を通じて多様な祭事が執り行われており、地元住民などが訪れ楽しむ姿がみられます。

また、昭和45年（1970年）から毎年夏に行われ、市民全体が盛り上がるイベントである吹田まつり（令和2年（2020年）から「すいたフェスタ」に名称変更）、各地域での盆踊りや納涼祭などが開催され、多くの人々が季節ごとに各地でハレの日を楽しんでいます。



エキスポシティ

■自然と眺望を味わう

万博記念公園などまとまった緑のある空間や、紫金山公園など、市内には身近に自然に触れ、楽しめる場所があり、親子連れなど多くの人が訪れ、自然を楽しみながらくつろぐ姿がみられます。

千里ニュータウンの幹線道路は広々として見通しもよく、遠方の箕面山系や周囲の住宅群などが街路樹などの緑と調和して見え、美しい通りの景観が楽しめます。

河川沿いではジョギングやサイクリングを楽しむ人、犬の散歩をする人、川風に当たりながら川の眺めを楽しむ人などの姿がみられ、特に神崎川沿いでは、美しい夕日や夜景を眺めることができます。



万博記念公園

眺望

●距離による景観の見え方の違い

視点から対象までの距離は、景観の見え方に影響する大事な要素です。対象までの距離によって、近景・中景・遠景に分けられます。

「近景」は樹木や住宅の個々の特徴が把握できる距離、「中景」は個々の特徴までは分からないものの風景のまとまりとして把握できる距離、「遠景」は高層の建物や稜線などの地形のアウトラインが際立つ距離とされています。

●丘陵から「見下ろす」眺望と平野から「見上げる」眺望

眺望は、数 100 メートルから数 10 キロメートルもの距離にある対象を眺める景観であり、中景～遠景にあたります。

吹田市は北部の千里丘陵と南部の神崎川・安威川へと広がる平野による、変化に富んだ地形を有しており、市内の様々な場所から眺望の景観を楽しむことができます。



丘陵端部に位置する住宅地（円山町）からの市街地を「見下ろす」眺望



平野にある市街地（垂水町）から丘陵斜面の緑を「見上げる」眺望

●移動しながら眺める景観

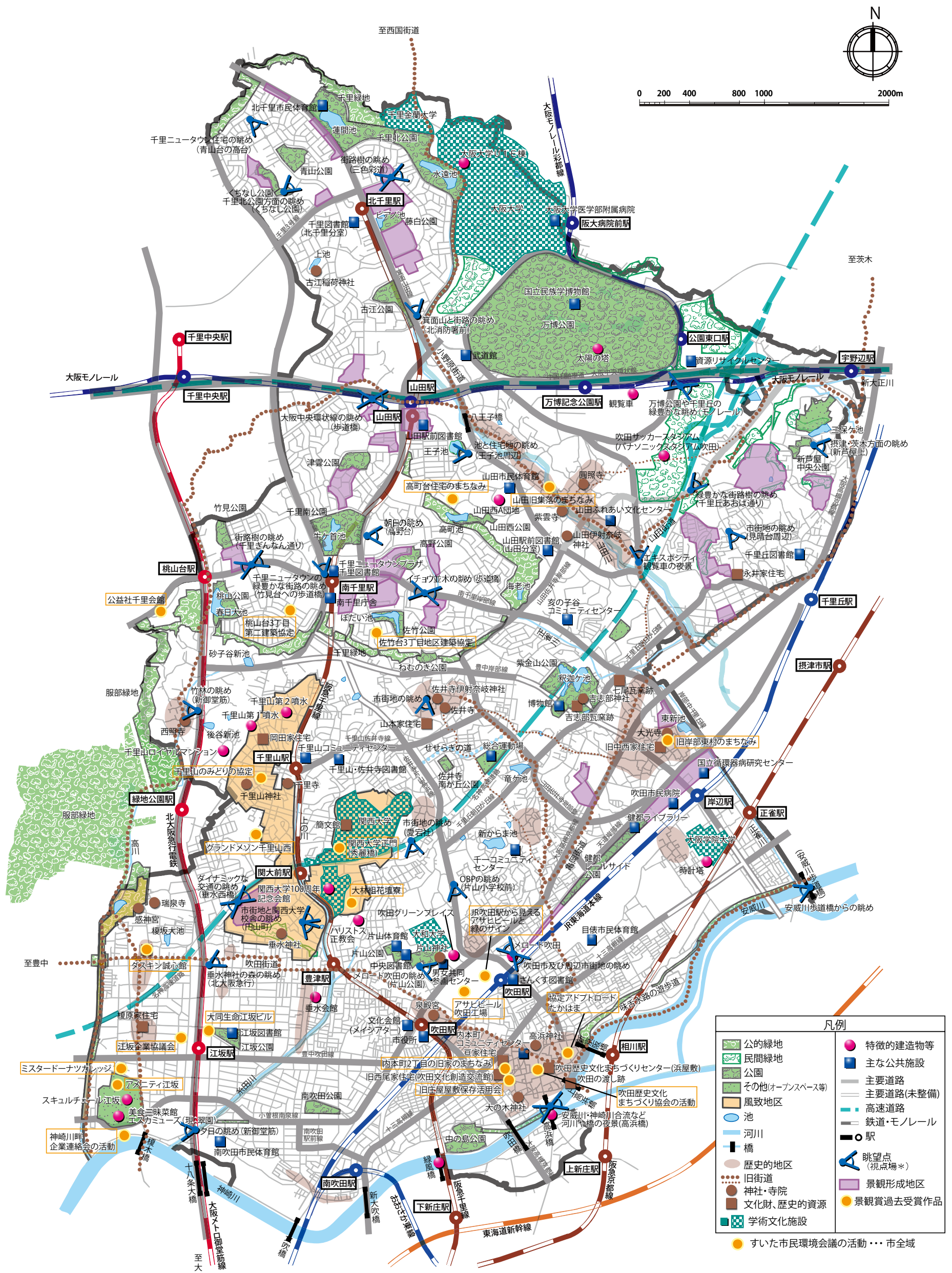
普段の生活で、歩きながら、車を運転しながら、電車に乗りながら、移り変わっていくまちなかの風景を眺めることはないでしょうか。

曲がりくねった路地裏を散策するときの期待感、モノレールに乗っている時に遠くに見えた太陽の塔がだんだん近づいてくるときの高揚感など、風景に動きがあることで豊かな体験が生まれます。見る人が移動することで変わっていく風景の時間的なまとまりは「シークエンス景観*」とよばれるもので、これも景観の一部なのです。

* シークエンス景観：視点を移動させながら次々に移り変わるシーンを継続的に体験する景観。道路からの自動車等や電車の車窓からみる景観のことをいいます。

第1章 吹田らしい景観の特性
1 吹田らしさをあらわす景観の特性

市内の景観資源



(令和3年(2021年)11月末時点)

* 視点場: 視点が位置する場所のうち、主に道路や公園など公共性の高い場所を示します。車両等の移動する視点場も含まます。

2 景域

(1)景域とは

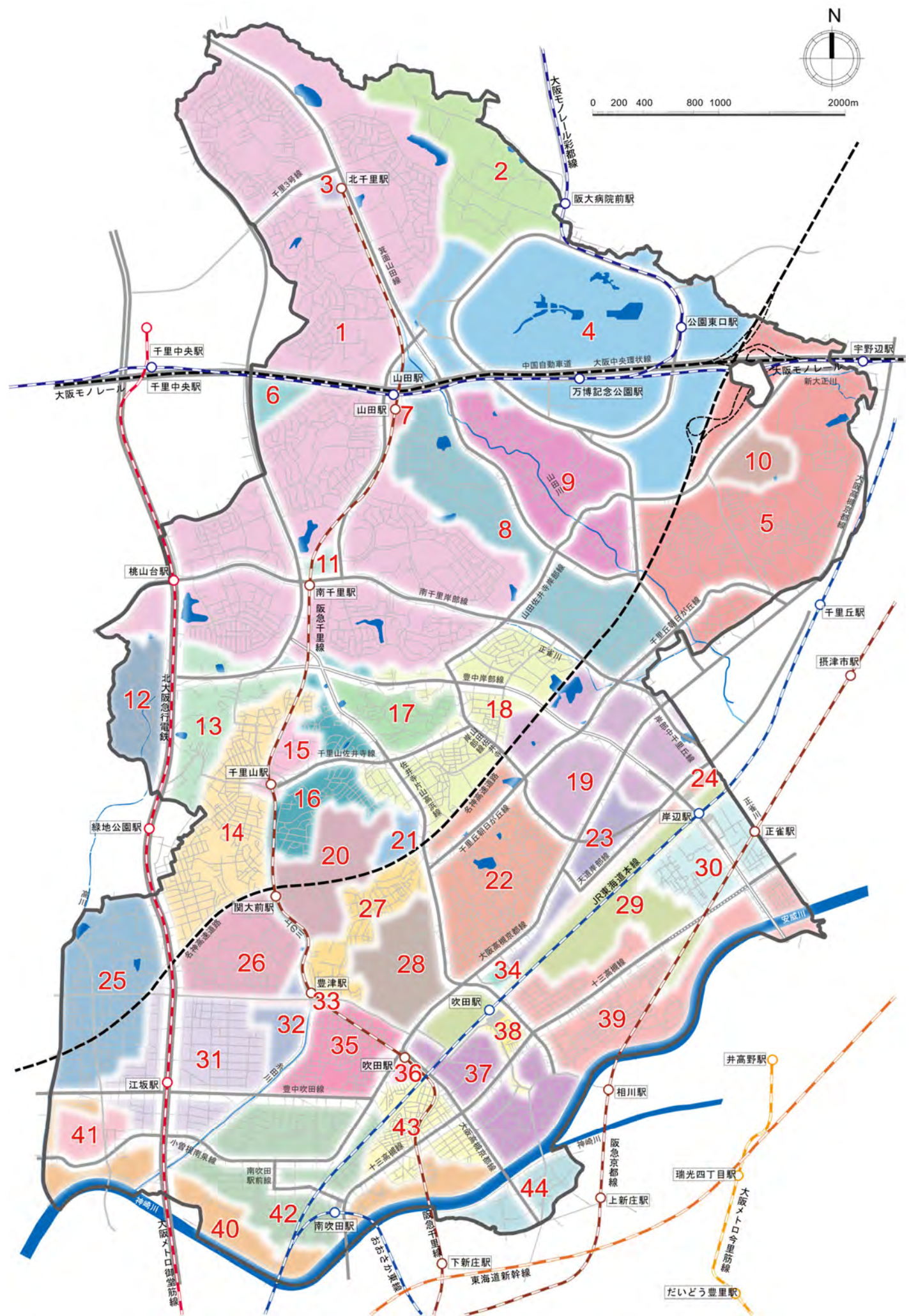
本市の4つの景観特性である「地形」、「歴史」、「土地利用」、「都市活動・暮らし」がおおむね共通するひとまとまりの空間の範囲を、本計画では「景域^{けいいき}」と呼びます。

本計画では、市全体を対象とする景観特性と景観まちづくりの方針を示すとともに、景域毎の特性に応じたより細やかな方針を示します。

景観特性を捉える要素



市内の景域



(令和3年(2021年)11月末時点)

景域 番号	景域の名前	景域 番号	景域の名前	景域 番号	景域の名前	景域 番号	景域の名前
1	千里ニュータウン界隈	13	千里山竹園界隈	25	江坂町界隈	37	内本町・南高浜町界隈
2	大阪大学界隈	14	千里山西界隈	26	円山町界隈	38	JR吹田駅南口界隈
3	北千里駅界隈	15	千里山駅東側界隈	27	山手町界隈	39	JR以南(東部)界隈
4	万博記念公園界隈	16	千里山東界隈	28	出口町・片山町界隈	40	神崎川沿い(南吹田の工業地)
5	千里丘界隈	17	佐井寺界隈	29	吹田貨物ターミナル駅・吹田機関区界隈	41	芳野町界隈
6	津雲台7丁目界隈	18	佐井寺南・五月が丘界隈	30	岸部南界隈	42	南吹田駅界隈
7	山田駅界隈	19	岸部界隈	31	江坂駅界隈	43	JR以南(西部)界隈
8	山田西界隈	20	関大前駅界隈	32	垂水町2丁目界隈	44	東御旅町・西御旅町界隈
9	山田東界隈	21	上山手町界隈	33	豊津駅界隈	45	幹線道路・鉄道沿線
10	千里丘界隈(ミリカセンター跡地)	22	原町・朝日が丘町・藤が丘町界隈	34	JR吹田駅北口・片山商店街界隈		
11	南千里駅界隈	23	岸部中・片山町界隈	35	泉町界隈		
12	春日界隈	24	北大阪健康医療都市界隈	36	阪急吹田駅界隈		

景域を定める景観特性は時間の経過とともに変化していくものも含まれるため、それらに伴い、今後、景域も変わっていく可能性があります。